

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

直方市立直方第二中学校

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	直方市立直方第二中学校全校生徒605名 直方第二中学校教職員50名 本校区教職員 保護者、地域の住民
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 (いのちの授業)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマにそった「ひと・もの・こと」との出会いや学びを通して、児童・生徒自身の生き方をふりかえらせ、人権を尊重する意志と実践力を養う。</li> <li>【インクルーシブな社会（共生社会）の構築】</li> <li>・21世紀を「生きる力」、「社会力」を身に付ける。「社会力」とは学校（社会）をよりよくするために、自分で学校の課題を見つけ、調べ、確かめ、考えて、行動していく力のことである。</li> </ul>
5 取組内容	<p>直方二中ブロック いのちの授業</p> <p>直方第二中学校</p> <p>本物との出逢い</p> <p>「心の居場所づくり」 ～みんなの笑顔のために～ 民道 純さん</p> <p>卒業生の姿に学ぶ</p> <p>連携・協働</p> <p>二中吹奏楽部と合唱</p> <p>スマイル集会</p> <p>感田小 いのちの授業 学校公開</p> <p>上頓野小 共に学び、共に育ち合う</p> <p>参加・協力・体験を重視して</p> <p>直方東小</p> <p>2017年度</p>

○「いのちの授業」とは

人との出会いを通して、「命」や「差別」について考え、自分や友だちのいのちを大切にしてほしい。そして、困難や挫折に負けず、たくましく生き抜いてほしいという教職員の願いから取り組みが始まった。さらに、実行委員会制を取り入れることで、何事にも主体的に取り組むことの大切さや仲間の存在や人とつながることの大切さを考えさせている。今年度は、この「いのちの授業」にパラリンピックの要素を取り入れることで学習の質を高めていきたいと考えた。

### いのちの授業 1年間の流れ

いのちの授業オリエンテーション（全校道徳）



○ 実行委員の募集（各学年6名程度）

事前学習

○当事者との出会い ○調査、体験学習等  
○まとめ、新聞発行 ○事前道徳



家庭教育講演会（教職員、保護者）

「いのちの授業」事前集会（全校生徒）

「いのちの授業」講演会（全校生徒、教職員、保護者）



事後学習

○事後道徳（まとめ）、事後アンケート

○取組の方策

子どもたちが本物に出会う体験活動を仕組み、体験の質と量を高める。子どもたちは、図書やインターネットで調べて、知り得る知識だけでなく、本物と出会い、実際に自分の目や耳、肌で感じさせることで、主体的な学びへとつなげる。

（1）いのちの授業実行委員の役割

主体的な学びになるように、各学年より、「いのちの授業」生徒実行委員会（以下、いのちの授業実行委員）を募集、組織して1年間の取り組みを子どもたちと共に創造し、実施する。実行委員の主な仕事は、いのちの授業講演会に向けて、当事者から直接話を聞いたり、現地での調査、関係図書、インターネットなどを使い調べ学習をしたりして、事前学習会で全校に向けて、発信をすることである。また、広報活動や事前集会の企画・運営、講演会当日の司会進行などを行う。さらに、PTA 家庭教育委員会と連携した取り組みを行うことで、保護者や地域への発信を行う。

（2）小中連携した取り組み

- ① 年度当初のいのちの授業検討会議（小学校の担当者も含む）において、その年度のテーマを検討し、二中ブロック人権教育推進委員会で承認を受ける。
- ② 小学校6年生を中心として、小中合同の「いのちの授業」の取り組みを検討すると共に、小学校版「いのちの授業」を創造、充実させる。
- ③ 「いのちの授業」講演会を2学期に実施する。夏季休業中に当事者訪問学習等の事前学習を実施する。

○本年度のテーマ

☆ 小中合同テーマ「みんながつくる みんなの学校」

☆ 直方二中テーマ「心の居場所づくり～みんなの笑顔のために～」

みんなが笑顔で学校生活をおくれるように居場所づくりを行い、お互いを理解し認め合い、学び合い、育ち合える学校（社会）をつくる大切さについて学ぶ【インクルーシブな社会（共生社会）の構築】

○取組の実際

(1) 「いのちの授業」オリエンテーションについて  
(6/28水1校時 道徳)

「みんながつくる、みんなの学校」（大空小学校の実践）に学び、昨年度の課題から本年度の「いのちの授業」のテーマについて子どもたちと共に確認することで、「共生社会」について考え、学校での「心の居場所づくり」を実践する動機づけを行う。

(2) 浦田理恵さんとの出会い学習の取組

1 目的

浦田さんは教師になる夢を胸に福岡にやってきた。しかし、急な視力低下で教師になる夢を諦めざるをえなかった。夢や希望を失い自暴自棄にもなったが、家族や友達の温かい支えのおかげで立ち直ることができた。一度しかない人生を輝かせたい！幸せは自分自身で掴みとることができる。挫折を味わった浦田さんから伝えられること、世界一を目指す浦田さんだから与えられる元気や勇気について学ぶ。

2 日時

平成29年8月31日（木） 11:00～12:00 講演  
(実行委員との交流学习 12:00～12:30 質問等)

3 場所

直方市立直方第二中学校 図書室

4 対象生徒

いのちの授業実行委員（21名）

希望児童生徒（6名） 計27名

5 講師

浦田 理恵（うらた りえ）さん（ゴールボール選手）

6 演題

「困難や問題は神様からのプレゼント」



(生徒の感想から)

- 浦田さんは目が見えないのに外国で活躍をしていることがすごいと思いました。
- 私は浦田さんの話を聞いてとても印象に残ったことは、やり方は一つじゃない事です。失敗してもそのやり方が違ったんだ。もう一つのやり方がある。自分ができなければ、他の人に手伝ってもらおう。その一歩を自分からふみだせなかったら、なんにもならないという言葉聞いて強く心打たれました。ゴールボールで世界一になりとてもすごいと思いました。出来ないことを数えるより、できることを数えた方が楽しい。その言葉を聞いて、人にできることとできないことがあってできない事があっても助けあえばできるようになると思ったからです。失敗しても大丈夫といってくれる仲間がいることはとてもいいことだし、自分も見守ってくれる仲間がいたら嬉しいし、自分も言える人になりたいなって話を聞いてすごく思いました。

### (3) いのちの授業」講演会

#### (1) 日 時

平成29年12月9日(土) 8時55分～12時00分

事前集会： 8時55分～9時30分(35分)

体育館入場開始8:40

講演会： 9時40分～11時25分

学活： 11時35分～12時00分(25分)

#### (2) 会 場

直方市立直方第二中学校 体育館

#### (3) 対 象

約760名

(生徒・職員・市内小学校関係者・保護者)

#### (4) 講演内容

「心の居場所づくり～みんなの笑顔のために～」(仮)

講師：プロ車いす陸上選手 廣道純さん

#### (5) 講演会次第

ア 校長挨拶

イ 講演(90分)

ウ 質疑応答



エ お礼の言葉

オ 花束贈呈

(生徒の感想)

- 廣道さんは高1でまだ何でもやりたい年の時に事故を起こしてしまったにも関わらず、すごく何事にもポジティブ思考ですごいなと思ったし、尊敬しました。いろいろな苦労があると思うけど、話している中でもずっと笑顔でいたので、幸せなんだろうなと思いました。廣道さんを陰で支えてくれている奥さんや両親などのいろいろな応援があったからこそ、今の廣道さんがいるんだなと感じました。そして、私のことも同じように支えてくれる人がいっぱいいることを改めてして、私もこういう人に元気を与えるような人になりたいと思いました。廣道さんの話を聞いて何事にも諦めずに挑戦



	<p>し続けたいと思いました。</p> <p>○ 私は障がい者のことを「かわいそう」とか思っていたけど廣道さんの話を聞いて、「障がい者は自分より不幸な人、かわいそうな人じゃなくって、足が使えなくてもこれはできる、あれができると自分達健常者にはできないいろいろな考えやチャンスをもっている幸せ者なんだ」と考えを改めることができました。中学校生活の中ではなかなか障がいのある人と話す機会がなくてずっと障がいのある方々に対して一方的な考えをもったままでしたがこの「いのちの授業」を通して私は障がいがあったとしてもおちこまなくていい、私は障がいがあることで幸せになれる可能性がもっと広がる」と思いました。まだ、障がいに対して偏見をもっている人はいると思います。その偏見を減らす努力をしたいです。それと障がいを受け入れる心もちたいと思います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<p>○ みんなが笑顔で学校生活をおくれるように「心の居場所づくり」を行い、お互いを理解し認め合い、学び合い、育ち合える学校（社会）【インクルーシブな社会（共生社会）の構築】をつくる大切さについて学び、意識付けをすることができた。</p> <p>○ 学校（社会）の課題に自ら気付き、調べ、確かめ、考えて、行動していくことの大切さについて学ぶことができた。</p> <p>○ 子ども、保護者、教職員、地域の方が共に学び、「みんなの学校」をつくることの大切さを確認することができた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションを実施して、全校生徒、全職員が共通理解して、取り組みを進めた。</li> <li>・生徒の主体的な学びとなるように、いのちの授業実行委員（各学年6名程度）を中心とした、事前学習会、当事者、本物との出会い学習会を実施した。</li> <li>・「いのちの授業」講演会の事前学習として、道徳を実施した。</li> <li>・「いのちの授業」事前学習集会をいのちの授業実行委員を中心に企画、実施した。</li> <li>・教職員、保護者が共に学ぶ場として、PTA 家庭教育委員会と連携した。「いのちの授業」に関連して、PTA 家庭教育委員会を中心として、小中PTA が連携した「家庭教育講演会」等の取り組みを実施した。</li> <li>・「いのちの授業」の取り組みの振り返り（事後道徳等）を行い、1年間の取り組みの振り返りを実施している。</li> </ul>

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「インクルーシブな社会（共生社会）の構築」のために、学校が変われば、地域が変わり、地域が変われば、社会が変わるという上位の目標を見据えて、取り組みを実施すること。</li> <li>● 子どもの生きる場所は「学校、家庭、地域」である。その中の1つでも居場所があれば、子どもは救われる。子どもに寄り添い、大人が子どもと共に学ぶ姿勢を大切にしたい。そのために、子ども、保護者、地域の方、教職員が共に学ぶ場と環境を大切にして、取り組みを継続していかなければならない。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<p>次年度は、本年度の事業の成果と課題を踏まえ、更に「インクルーシブな社会（共生社会）の構築」のために、「いのちの授業」の取り組みを継続、発展させていく予定である。</p> <p>具体的には、次年度「いのちの授業」講演会の講師に大空小学校、初代校長の木村泰子さんを迎え、「みんなの学校、みんなの社会」をつくっていくための学びを深めたいと考えている。</p>